

＜米国研究製薬工業協会(PhRMA)と第36回日本臨床薬理学会学術総会が共催＞
“トランスレーショナルリサーチの実践”をテーマに
『第3回ヤング・サイエンティスト・シンポジウム』を開催
～産官学 若手研究者がリーダーシップを発揮する時～

日時:2015年12月10日(木) 9:00～14:30

会場:京王プラザホテル(新宿)

主催:第36回日本臨床薬理学会学術総会・米国研究製薬工業協会(PhRMA)

後援:厚生労働省、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)、日本製薬工業協会(JPMA)、欧州製薬団体連合会(EFPIA)

PhRMAは第36回日本臨床薬理学会学術総会との共催により、去る2015年12月10日、東京・新宿の京王プラザホテルにおいて、ライフサイエンスにおける若手基礎研究者を対象に、「第3回ヤング・サイエンティスト・シンポジウム」と題した研究会を開催しました。

同シンポジウムは、PhRMAが2013年に発表した、基礎研究に携わる日本人の若手研究者を対象とした人材育成支援プログラム『ヤング・サイエンティスト・プログラム』の一環として実施しているもので、創薬分野で若手研究者が果たすべき役割の重要性に関して、グローバルな視点から再認識することを研究者たちに促すこと、研究意欲のさらなる向上、創薬分野で世界的に活躍できる人材を育成することを目的としています。

2015年1月に続き、第3回目となる今回のシンポジウムは、前回と同じく、3部構成で実施しました。

第1部は、公益財団法人 先端医療振興財団 専務理事の村上 雅義氏がモデレーターとなり、豊富な経験と知見を有する、米国および日本の産・官・学の研究者による基調講演を行いました。

最初に、行政の立場からは、AMED 臨床研究・治験基盤事業部長の吉田 易範氏が「AMEDによる橋渡し研究・臨床研究・治験等に対する支援について」と題して、講演しました。続いてアカデミアの立場からは、大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授の岸本 忠三氏が「抗IL-6受容体抗体トシリズマブの開発:アカデミアの基礎研究を産官学連携でいかに臨床につなげるか」について講演し、最後に米国の産業界を代表し、Director, Disease Integrative Biology, Immunology Therapeutic Area, Janssen Research and Development, LLC の Joshua R. Friedman 氏が「Translational Research for Drug Development in Immunology – Case Studies with a Focus on Collaboration」について講演しました。

第2部では、ワークショップとパネルディスカッションに分かれ、それぞれのテーマについて討議、意見交換を行いました。

ワークショップでは、同じく PhRMA による『ヤング・サイエンティスト・プログラム』の一環である「マンスフィールド・PhRMA・リサーチ・スカラー・プログラム」(公募により選出された日本人若手研究者を毎秋 10 名程度 2 週間米国へ派遣)の参加経験者がファシリテーターを務め、『第 2 回ヤング・サイエンティスト・シンポジウム』ワークショップでの討論結果を踏まえて、一般公募により参加するアカデミアの若手基礎研究者と製薬企業等の開発担当者が 4 グループに分かれて、若手研究者たちが「現場で感じているハードルや今後取り組むべき課題」について話し合いました。

パネルディスカッションでは、大分大学医学部臨床薬理学講座 教授の上村 尚人氏がモデレーターとなり、第 1 部モデレーターの村上氏と講師 3 名をパネリストに迎え、「トランスレーショナル・リサーチ (TR) 実践に向けての産・官・学の取組みについて」をテーマに議論を展開しました。

第 3 部の総括では、上村 尚人氏が引き続きモデレーターとなり、パネルディスカッションの討論内容を全参加者に共有し、ワークショップ各グループの代表者がそれぞれ討議内容を発表しました。

最後にパネリストの先生方からは、「今回のワークショップで課題や対応策について共通認識ができていますが、実際にどう TR を進めていくかについては、TR はチームプレーであり、専門家集団をコラボレーションしてチームを引っ張っていくイノベーションリーダーを作っていくことが大事で、それには 1 つ 1 つ丁寧に事例を積み上げていくしかない。またそういった、環境を作ることも大事だ。」との意見が出ました。

本シンポジウムでは 105 名の方々が聴講し、参加者からは「経験豊富な先生方から、多くの意見を伺えて、大変勉強になった」「産学のシーズイメージの違いが良く分かった」「TR に関するこのような取り組みは、今後も継続していただきたい」「人材育成の他、人材交流の成功事例について紹介してもらいたい」などのコメントが寄せられました。

【シンポジウムの模様】

■ 第 1 部 ■

渡邊 裕司氏



村上 雅義氏



吉田 易範氏



岸本 忠三氏



Joshua R. Friedman 氏



全体の風景



■ 第 2 部 ■

パネル・ディスカッション



ワークショップ

グループ A



グループ B



グループ C



グループ D



■ 第 3 部 ■



藤本 利夫
PhRMA S&R Leadership Committee 共同代表

